



「夢の坂」を越えて

静岡県立観音山少年自然の家 所長 大橋 英之

大きな荷物を背中と胸に、汗をかきながら所に続く最後の坂を登ってくる子供たち。「夢の坂」の看板を見て、思わず「地獄の坂だよ…」とつぶやく子も。でも、この坂を下るときには、多くの子が「もっといたい」「また来たい」と言いながら、とてもよい表情でお別れをしています。まさに「夢の坂」です。長くても2泊3日の観音山での生活で、なぜこうも変わるのでしょうか。子供のお礼の手紙と一緒にいただいた先生の感想に、このようなことが書かれていました。

「なんで一泊なの？もう一日いたい！」帰りの夢の坂で、どの子も「帰りたくないな…」とさびしそうにしていました。きっと、たくさん挑戦し、頑張り抜くことができたからだと思います。きっと、友達を心配し、声を掛けることで人の役に立つことができたからだと思います。そして、友達にもたくさん支えてもらい、心地よい二日間を過ごすことができ、多くの感動を味わうことができたのだと思います。夢の坂の下まで聞こえてきた山びこ挨拶…みんな、「わあ、返してくれた！」と喜んでいました。挨拶をすること、返してもらおうことの心地よさを感じ、これからは挨拶を大切にしていこうと思えたようです。 ～ 一部略 ～

日常とかけ離れた環境で自然にどっぷりとつかり、時には大変なことがあっても友達と励まし合いながら乗り越える。いつもより諦めずに頑張れた、いつもより友達に優しくできたなど、新たな自分の成長や友達と協力する心地よさを、体験を通して実感できる。ずっと大切に引き継がれてきた言葉、「観音山は感動山」とは、まさにこのようなことなのだ強く感じました。

一年の世相を表す「今年の漢字」が「熊」であると発表された令和7年、観音山周辺でも11月に熊の姿を目撃し、観音山少年自然の家のおかれる状況が大きく変わりました。利用団体の皆様には多大なる御心配や予定変更の手間をお掛けしました。熊騒動後、久しぶりに開催した12月の主催イベント「ファミリーデー」の中で、「いってらっしゃい！」「お帰り～！」の声掛けをしたときには、お客様を迎えることができた喜びに胸が熱くなりました。やはり利用者があってこそ観音山。これからも多くの方々に観音山での感動体験を味わっていただきたいと強く感じました。

1973年（昭和48年）の開所から52年、延べ210万人を超える方々に利用いただいている観音山。少年自然の家が続く限り、所員一同、来所者の安心・安全を最優先し、精一杯取り組んでいきたいと思っております。皆様の御利用を心からお待ちしております。

静岡県立観音山少年自然の家

〒431-2201 静岡県浜松市浜名区引佐町東久留女木字観音山

TEL(053)545-0111 FAX(053)545-0363

URL:<https://www.pref.shizuoka.jp/kodomokyoiku/shogaigakushu/kannyonama/index.html>

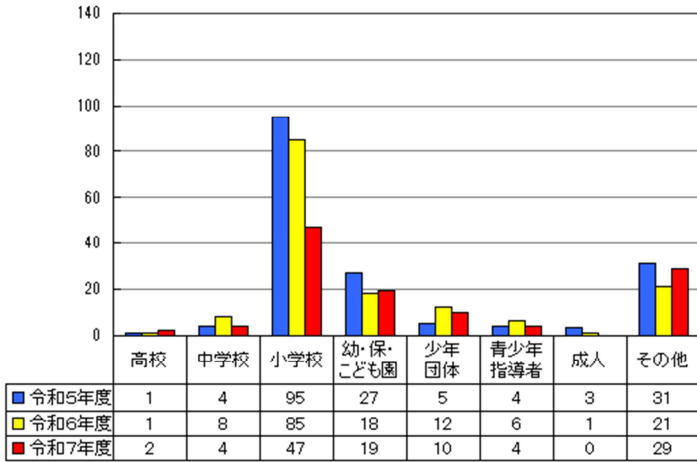
令和7年度の利用状況

静岡県立観音山少年自然の家

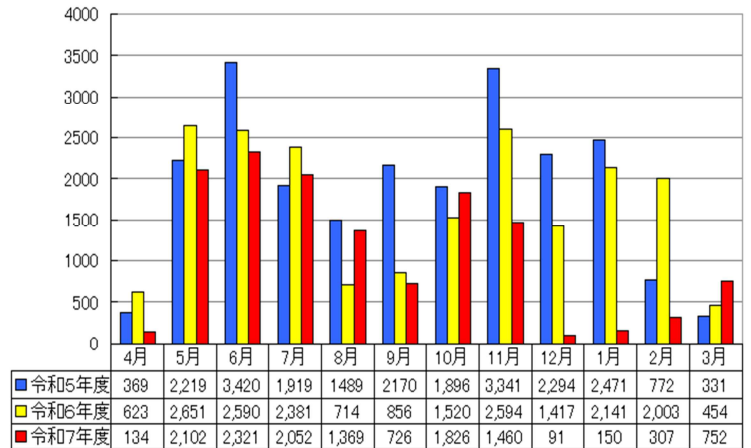
年間延利用者数

5年度 22,691人
6年度 19,944人
7年度 13,290人

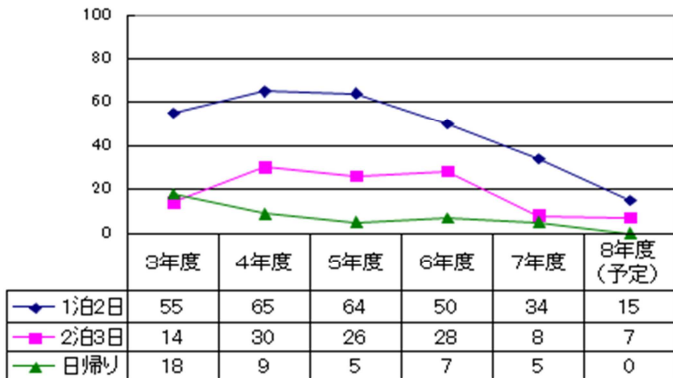
利用団体数



月別延利用者数



小学校の宿泊日数



令和7年度は、所周辺で「熊の出没」があり、利用者の皆様に御迷惑や御心配をお掛けしました。そのため、利用者数は目標としていた2万1千人に到達することができませんでした。来年度も引き続き、利用者の安全・安心を第一に考えて、所を運営して参ります。

小学校については入所団体の多くが1泊2日での利用となっていますが、本所では、たっぷりと自然体験活動を行い、子供たちの心をたくましく成長させるために2泊3日での活動をお勧めします。

活動プログラム

困難克服型プログラム



山頂登山

沢登り



冒険ラリーなど

集団協力型プログラム



キャンプファイヤー

OLビンゴ



キャンドルのつどい、コマ地図ラリーなど

○「困難克服型プログラム」「集団協力型プログラム」

観音山少年自然の家では、活動プログラムを「たくさん歩いて、粘り強く困難を克服するプログラム」(困難克服型)と「集団(グループ)で協力して、話し合いながら課題を解決するプログラム」(集団協力型)に分類しています。これは各入所団体のめあてや子供たちの実態に沿ったプログラムを提案することを目的としています。今後のプログラム決定の際の参考にしてください。

キャンプイベントの様子

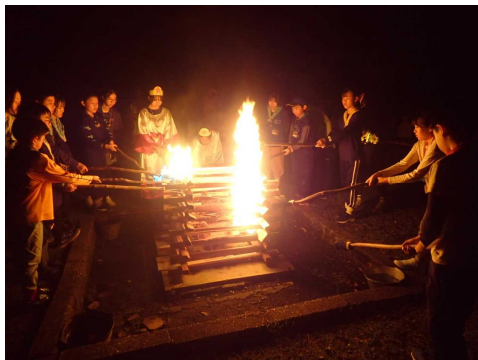
Shin 冒険王国

～ 新たな自分に出会おう！！～

令和7年7月 5日(土)～ 6日(日)

8月 8日(金)～10日(日)

9月13日(土)～15日(月)



「新たな自分に出会おう！！」をテーマに、今年度は日程を3回に分けて実施しました。子供たちは、豊かな自然の中で、ロングハイクや沢登り、キャンプファイヤーなど、多くの貴重な経験をしました。また、友達やキャンプカウンセラーとの関わりを通して、新しい自分の可能性に気づくことができました。

アドベンチャーキャンプ

～This is Me!! 誇れる自分になる～

令和8年2月7日(土)～8日(日)



森の活動・夜の活動・山の活動の3つの冒険に、仲間と共に笑顔で取り組みました。活動を通して、優しさ・勇気・挑戦心について考え、自分自身を誇りに思う大切さに気づくことができました。

もいもいキャンプ

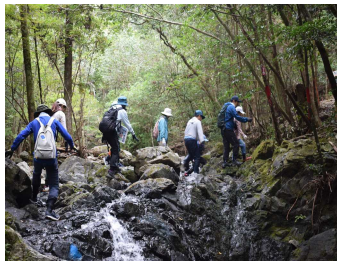
～かんのんステップ1・2・3～

令和8年2月28日(土)～3月1日(日)

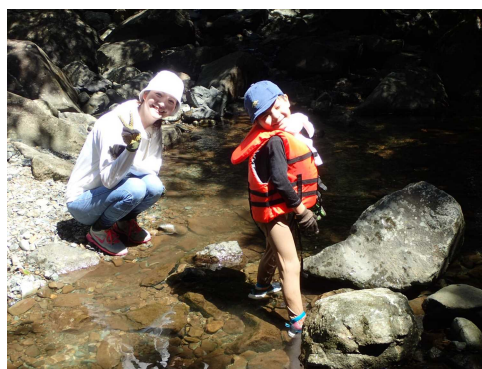


小学校1～3年生を対象に1泊2日のキャンプを行いました。「自分で!みんなで!やってみよう!」をテーマにして活動しました。子供たちのたくましい姿や笑顔がいっぱいの2日間となりました。

ファミリーイベントの様子



「ファミリーデー」や「わくわくホリデー」では、クリスマスリースや門松など、自然物を用いた物作りを行い、世界に一つだけの作品ができました。また、ファミリーでハイキングを楽しんだり、沢登りに挑戦したりしました。観音山ならではの自然体験を通して、家族の絆をさらに深めていただきました。



「観音山ハイキング」では、「山頂コース」・「大草原コース」・「星の広場コース」・「たな田歴史探訪コース」など、様々なコースから、ファミリーやグループがセレクトして、楽しみながら歩きました。

「ぶらっと観音」では、事前予約なしで参加者が来所し、ハイキングや沢登り、沢遊び等を、自分たちのペースで体験しました。笑顔があふれる素敵なイベントとなりました。

青少年野外教育スタッフ養成事業

リーダースクールin観音山



「リーダースクールin 観音山」では、参加した高校生・大学生が、研修で学んだことを生かし、子供たちに積極的に関わりました。

「アウトドア教室」では、中高生が指導者としての視点を持ち、野外活動の知識や技能、安全について学びました。どちらの研修でも、リーダーとしての心構えを考えることができました。

アウトドア教室